

死の農業を道放しよう 四方壽朗

数年前、私の飼っていた熱帯魚が白癩病で全滅した。それまでよく効いた薬も全く効果がなく、三、四十匹いたクッピーが、つぎつぎに白い腹の上に死んでいった。後日、判明したその原因は、何とほじめて使った瞬間湯沸し器の銅イオンのせいだった。

近年由良でも肝臓障害の患者さんが増えた。しかもなかなか治らない。そこで思い当るのが先程の熱帯魚の話だ。白癩病の本質(原因)は水の中の銅だった。今、朝日新聞に連載された話題になつて、いろいろ小説に、有吉佐和子氏複合汚染がある。これこそ、まさに現代日本人必読の公書本である。次にその一部を要約する。

現在の化学肥料と農薬一辺倒の農業は、土の中の微生物を殺し、天敵を全滅させる。そのため更に大量の農薬と化学肥料を必要とする悪循環をくり返す。出来た農作物はまづ毒入りである。これを死の農業と云う。農薬の基本は何と云うても土作りである。農薬や化学肥料を使わず、堆肥を十分入れた耕土は黒くてやわらかく、ミ、ゴ等の微生物に富み育った作物は病気に強く

近頃思うこと

中西英夫

春と目前にしてこの寒さは一徹と身にしみる

今年はずとまじえた念のいった冷え込みようでもだく油断の出来ないとの事。二月から三月にかけてのこの寒さの、ぶり返しと「寒の戻り」とか云つてうです

入園入学と前にして、私はいつも思う事がある。初めはもの珍しさも手伝って、五、六人で通っていた幼稚園も、六月の梅雨頃になると、ひどくいやがり出し困らせた。

あの手二の手のくどき作戦にも娘の心は動かすもう知らないし何度かくじけそうになった事が、その娘ももうすぐ四年生になる。

一昨年だったろうか、やはり雨の日だった。どうしても行こうとしない娘の手を引きするようになつてどうにか幼稚園迄連れて行った一人の母親がいた。私もおぼえがあるのかどうかとじつと見ていた。

母親が帰ろうとする時泣きさげの後を追って来たその時の母親の気持はどうだったろうか、どう説明出来るだろう。私はただ涙が出てしかたがなかった。

哀願するようにな娘の涙顔を見て母と娘は一緒にわーわー泣いてしまった。いと気がつく娘は泣く母親を背にしてどんく幼稚園へ入って行くではないか。

味もよい。大体これまで農林省が指導して来た単作大規模農業が間違いだ。経済大国と呼ばれる以前の一般農家はどうかだったが、牛がいて田のわらは殆んどその飼料と敷藁となり、再び田んぼへ返される。あせの草も飼って飼料にした。

現在の大規模農業はどうか。多数の牛に輸入配合飼料を与え、たれ流しの糞尿は河川を汚して公害となる。

農機具の支払に追われて冬出稼で出る米作地帯では大切な藁を焼き捨てる。草は農薬で枯らせる。そして化学肥料で更に土を殺し、育った弱い稲に更に大量の農薬を使つことになる。かくて農機具肥料農薬のカーブは心とリ、土はやせて毒物に満ちる。最近由良の人は元気がない。子供もおとなも老人も。

又、スポーツの世界でも水泳や陸上競技のよつに基礎体力を必要とする種目の凋落が目立つ。自殺や人殺し等の凶悪犯罪が増えたのも、農薬その他の慢性中毒による精神障害が疑われる。

日本列島一億死の行進はすでに取り返しつかない所まで来ている。三木総理をはじめ、すべての日本人にこの大作「複合汚染」を読んでもらいたい。各自が自分の身近から毒物を取り去る努力をしよう。生産者も消費者も共に手を取り合つて死の農業をくい止めよう。

どんなやさしい言葉にもどんなに激しくしかうても娘の心は動きはしなかったろうか。たつた一度の母の涙に娘の心が動いたと思つていまでもその事を思い、出さずにはいられない。なくなった祖母がよく、親、特に父親と云うものは寂しいものだ。女は口を出して云える、声を出して泣ける。しかし男は耐えなくてはならぬ。心の半分も口に出しておれを言えないものだ。と、もつと素直になつていたら思うものの顔を見ると、甘えるのどろろか我まま云うどころか、にくまれ口迄さつてしまう。

私は店の関係で学生に接する機会が多いが、一つ気になることがある。それは子供達の話し方です。「いいいな言葉使い」或いは高堂な敬語の使い方、まったく出来ないのです。

友達同士の話し方とて、いねいな言葉、又敬語の必要を相手との話し方が区別出来ないのです。この傾向は低学年から高学年迄あまり変わらないようです。

もちろんあまり形式ばつた事を子供に要求するのは好ましくないかもわかりません。

しかし、このまま成長していくのだと思つて考えさせられます。学校での指導も大切ですが私達もこの面から子供達と正しく指導して行きたいものです。

「盗人と捕えて見れば親子なり」市長選の投票を偽造したのが市選管の委員長だったと云う。

選挙民の貴重なる意志のこもった一票はだれに偽造されても不都合だが選挙委員長とはあきれかえるばかり。これは我々国史上でも初めての珍事、いや不祥事というがそれもそうだろう。こんな事がちよ／＼あつたつたまったものではない。

委員長は最高責任者として、出来るだけ公明適正を絵に描いた人物であつてほしいものです。



ろばは懇談会について 有田嘉太郎

脇地区は昭和四十二年度以降に四回「ろば懇」を実施し、その間二回も「ろば懇」の世話役として運営させていた。また、今回「ろば懇」に対する卒直な感想を述べさせていただきます。

この「ろば懇」開催の度に出席していただく方をお願ひする事のみずかしさに頭を悩ませて来ましたが「ろば懇」は、假人の時間つぶしであるとか、話上手な人の自己満足のある場であるとか云われる方があります。其の度に私は「ろば懇」は地区住民が集まって暮しの事を中心に気軽にみんなで話し合う学習の場であり、又その内容によっては必要に応じて行政ルートにのせるための会合でもあると、うねな説

義はますます弁揮されるものと思つて居ります。

然し「ろば懇」で話し合われた事が即行政ルートに反映されなければならぬという一部出席者の早合点にも世話役としてのむづかしさ、悩みがあり、今更乍ら「学習の場」としての懇談会への方角、位置づけの困難さを痛感して居ります。

そう云う意味から、この「ろば懇」の成長と期行しつ、その反面正しい純粹な意味での「ろば懇」がその育て方、やり方に依つてはとてつもない方向え、とてつもないみにくい「学習の場」と一転する危険性も多分に持ち合わせている林に思われれます。

当地区で開催された「ろば懇」で最も意義ある討議問題であつたと思われれる事は「其の浸食と防波堤」の問題、③「脇ふみ切規制」の問題です。

其の向後者のふみ切規制の事を取り上げて見たいと思ひます。現在脇地区におきまして「ふみ切り規制」の問題が生じている事はすでに新聞紙上で御承知の事とは思ひます。が、この機会をかりまして御説明させていただきます。奈良神社に通ずる道路のふみ切り(4)地桌を車輛通行禁止にしたいと云うのが国鉄側の意向です。

当地区の耕地並びにミカン畑は必ずこのふみ切りを渡つて行かぬ重要な脇地区の農業のメインストリートとも云われて居る所でございます。

明をつづけて参りました。其の結果「ろば懇」に出席していただく方々には毎回同じ顔ぶれの人達です。

この役員さんも出席されず、役員さんが出席されると思ひが出しにくいのではなからうかとも思ひ、一時は役員さんの出席と遠慮していただく二うかとも考えられたが、それでは行政面の批判もかけて行つて、いる様な感じもし、反つて一層参加しにくい状態になるのではなからうかとの友人の意見もありました。

脇地区は特に役員さんが行政面での処理に多忙をきわめて、いられる様に感じられ、区長さん以下役員さんの精神的苦力の両面での御苦勞が非常に多い様に思つて居ります。従つて区長さんのなり手が無いと申しますか、積極的にその役について奉仕しようという方が皆無の状態です。それも当然な様に思われます。然し色々地区の会合の結果新区長が四月には誕生される事もしばしば見られます。

この様なふんい気の中で役員会以外の会合又は懇談会形式の場所でのどんな討議問題が地区住民に積極的に受け止めていただく事になるのか苦慮します。

区役員会で審議されている事柄と全く同様の事があれば、しばある様に思われます。然し同様の事が二つの場所で行なわれれば、話し合われても良いわけです。特にその場合「ろば懇」では一定の限界をわきまえての討議であれば、この「ろば懇」の意

ここに規制されますと家門に通ずる道を利用することになり、時間的にも非常に不便をきたします。又、お年寄りの多、現状から考えますと全く御気の毒であるとしか考えられませんか。

企業、商店が工場もしくは店舗を開設する場合必ず便の良い道路と利用されやすい場所上選ぶのが常識とされ居りますし、又そのせんなくもあやまれれば経営並びに生活にも大きな支障をきたす事は衆知のことです。農業に關しても全く同様の事が要求されるものと思つております。所が現在の農業に關してはその勞働力、特に勞働時間と云うもの(生産過程)より、下まの土質の評價しかなされて、いまいと、いつか悲しく残念です。先祖代々の田畑が便の悪い場所にあつたのだから、その行き帰りの時間的問題、商売でいうならば口の多い、経営になつても仕方のない事だと云う事は、とんでもない時代さつかくの暴言と云わざるを得ません。

その様な事を国鉄は現在実行しようとして、います。国鉄側の云、分としましては交通安全の経費の削減等をかけての裏施の林です。

然し当地区としましては過去数年、前国鉄側の要求を通して、当地区の規制をのんで居ります。もうこれ以上の生活をみだされる事柄には絶対従う気持はございません。我々のくらしを守るための最低、最小の願ひをどうぞ

皆称 脇地区だけの問題として残らずに由良地区の重要
 な問題としてお考え 御協力していただき度いと思いま
 す。又、同時に決のしんしよく所波堤の問題も観光景
 看と共々路 港の問題としてではなく我々の暮しの、生
 活の中での問題として真剣に考えなくては、後世に大き
 な悔いを残す事になるものと確信して居ります。
 皆さん 腹を立てましょう
 そして 心より此ひ合います。

